November 2016 | 01

HU-plus

広島大学広報誌
Hiroshima University Magazine

ええね 広大！

特集◎
広大ここがええね！

散詩語録

学長からのメッセージ
Message from President

人生は、次の自分に襷をつなぐ駅伝だと思う

I think that life can be often likened to a long-distance relay, in which you hand a baton to the next phase "you".

人生はよく旅に例えられます。私は一人で襷をつなぐ駅伝だと思っています。

どちらに行くのがいいのか、どんなスピードで走ればいいのか全く分からないまま、とにかくある地点までひたすら走る。高校生時代なら目標地点は大学入試でしょうか。

沿道からは家族や友人、先生方の声援がありますが、走るのは自分。次の自分に襷を渡すのです。広島大学で待っていた私は、また走り出します。次なる目標の就職に向かって…。そんな繰り返しで、ここまで来たような気がします。

私に関していえば、43歳で島根医科大学（現・島根大学医学部）に教授として採用されました。当時の外科系教授の中ではすこぶる若輩でした。粉骨砕身努力したせいか、英語論文も病院収入も結構伸びたものです。当時、若かった現島根大学教授や現広島大学教授が医局員として支援し、伴走してくれました。

そして再び広島大学に戻ると教授として走り、病院長になった次の自分に襷をつなぎました。国立大学病院として100床あたり日本一の収入を達成できたのは、先代の病院長や構成員が走りやすいように道を整備し、掛け声をかけてくれたおかげです。

そして今度は学長という襷を受け取って、1年半が過ぎました。大学が目標とするものに向かって、途中で力尽きないようスピードにも気を付けながら精一杯走ろうと思っています。

ただ最近妻に指摘され、私自身も思い当たることがあります。何か新しいものを自分の専門領域に付け加えたいという希望は持っていましたが、実際はわき目も振らず、一目散で駆け抜け、風景を楽しむ余裕がほとんどなかったなぁと。また襷を上手く受け渡した時もあまり喜ぶいとまもなかったなぁと。人生のゴールが近づきつつあるなか、もっと楽しむべきかもしれません。

ただ、もうここまで来たのだから、とりあえず次の自分に襷を渡してからでもいいか、と思う自分がいます。卒業生をはじめとする皆さんのご支援が、走るエネルギーです。

越智光夫

Life can be often likened to a journey. However, in my opinion, it also parallels a long-distance relay, in which you hand a baton to the next phase "you" waiting at set road junctions of your life.

Along this course, you don't quite know which path or direction to choose at an intersection, or at which speed to run, but you do know to just keep on running to get to a certain goal. For example, at high school, one such goal is to pass the university entrance examination.

Along the way, you can expect some cheers of encouragement from your family, friends, and teachers, but only you can actually run the course. When you reach a set goal, you pass the baton to the next "you". In my case, when I handed the baton to the next "me" waiting at Hiroshima University, I immediately took off for the next set goal which was job hunting... I seem to have been repeating that process my whole life until now.

At the age of 43, I was invited as a professor to Shimane Medical University (the current Faculty of Medicine at Shimane University). I was the youngest orthopedic professor there and I was surrounded by more experienced professors. I am fortunate that my hard work during this Shimane Medical University professorship was rewarded by a substantial increase in both the number of published English papers and the University Hospital revenue. Among those who supported me and accompanied me along that path were the two young medical staff members of Shimane Medical University, each of whom is now a professor and chairman at the Department of Orthopaedic Surgery, at Shimane University and Hiroshima University respectively.

The next leg of my journey took me back to Hiroshima University, where I continued for some time along my running track as a professor, until passing the baton to the next "me" when I was appointed Hospital Director. During my directorship, Hiroshima University Hospital was second to none among Japan's national university hospitals for the amount of revenue it generated per 100 beds. My predecessor, as well as the hospital staff at that time, had paved my way for this achievement.

It has been a year and a half since my current 'President' baton was passed to me. Since then, I have been running with all my strength, whilst also ensuring that I don't run out of steam along the way.

My wife recently mentioned this to me, and I quite agree with her: although in the past I have always longed for adding something new to my field of specialization, but so far in my life, I have not been able to appreciate the scenery along the way because I have been moving constantly at full speed... It follows that I have also not had the leeway to anticipate the pleasure of passing the baton to the next person in line... Perhaps I should start enjoying my life more, as the final destination becomes visible in the far distance...

On the other hand, having come this far in my life, for the time being I can see myself continuing in the same vein as always, waiting until after the next baton handover to muse on the future. What keeps me going along my current path is everyone's cheering support, including that from the Hiroshima University alumni.

広島大学広報誌 Hiroshima University Magazine

HU-plus ええね広大！

November 2016 | 01

「HU-plus（エイチユー・プラス）」とは…
「HU」はHiroshima Universityの略称。「plus」には、①これまで知らなかった広島大学の魅力や情報をあなたに“プラス”、②本誌をきっかけに広島大学とあなたが“つながる（＋）”という2つの意味を込めています。

今号の表紙

教育学部棟から南東を見渡すと、広がる東広島キャンパスのロケーション。手前の白い建物はサタケメモリアルホール。グランドピアノをイメージした外観で1,000人を収容できます。奥に立ち並ぶのは工学部の4棟、最奥が英語による授業が数多く開講されている国際協力研究科です。

Contents

001 散詩語録
学長からのメッセージ

003 特集
広大ここがええね！

013 SPECIAL REPORT 日経サイエンスが見た広島大学
個の力を組織で支える広大式の研究拠点づくり

015 研究者魂
後藤秀昭 大学院文学研究科 准教授

017 広大教育考
クォーター制の導入

018 キャンパス散歩
工学部門柱

019 HU-style
〈vol.1〉部活・サークルに打ち込む広大生

021 OB・OGインタビュー 現役広大生による取材・編集記事
中川雅人さん 株式会社デンソー
山田早織さん 東広島市役所

025 HU TOPICS

027 広島大学への寄附・基金について

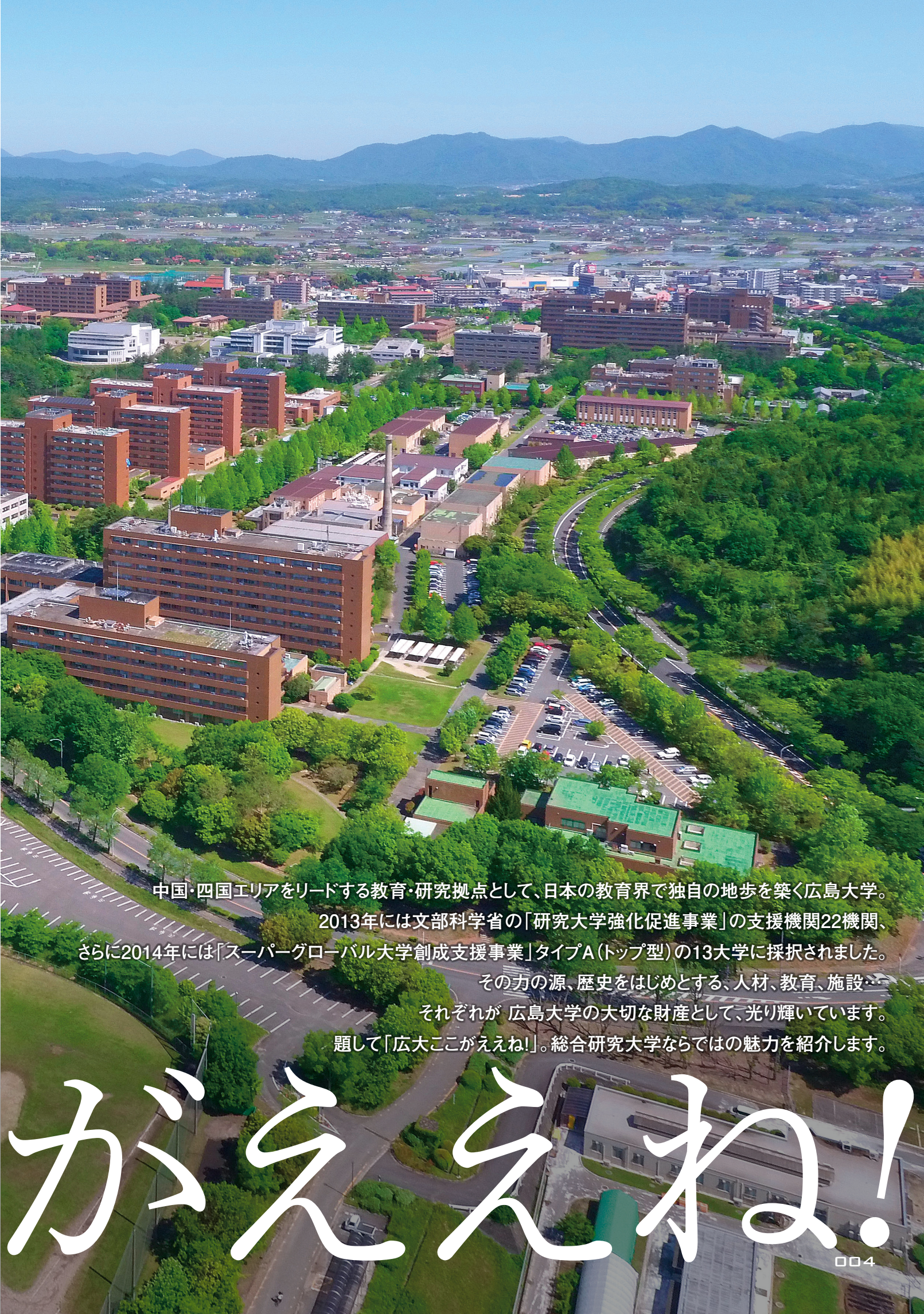
029 読者アンケート・プレゼント

030 産学官連携商品 開発モノがたり
八朔銘菓「せとこまち」 株式会社にしき堂

031 留学紀行

広大とと

「特集」



中国・四国エリアをリードする教育・研究拠点として、日本の教育界で独自の地歩を築く広島大学。
2013年には文部科学省の「研究大学強化促進事業」の支援機関22機関、
さらに2014年には「スーパーグローバル大学創成支援事業」タイプA（トップ型）の13大学に採択されました。
その力の源、歴史をはじめとする、人材、教育、施設…
それぞれが 広島大学の大切な財産として、光り輝いています。
題して「広大ここがええね!」。総合研究大学ならではの魅力を紹介します。

がええね!

旧東千田キャンパスの正門から理学部1号館へと伸びるメタセコイアの並木道。初代学長の名を冠して「森戸道路」と呼ばれ、フェニックスと並ぶ広島大学のシンボルとして学生に親しまれた。

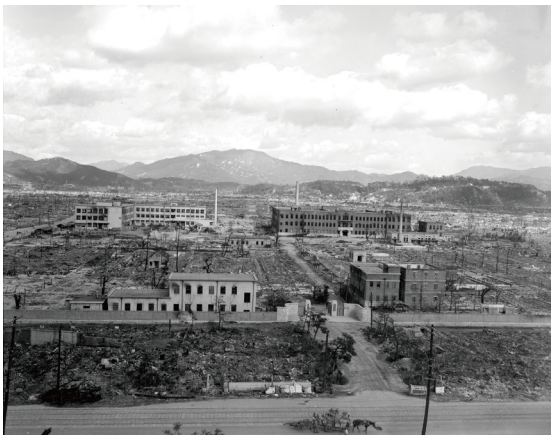
特集 広大ここがええね! 01：歴史＋平和

フェニックスをあしらった学章が、広島大学の歴史を象徴する。

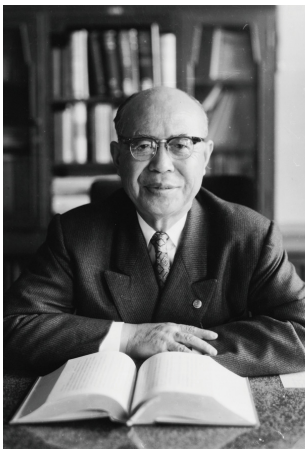
人類史上初の原爆が投下されたヒロシマの大学として———。
広島大学を語るには欠かせない「平和を希求する精神」は、
学章デザイン、授業科目、学生の行動、など至る所に垣間見えます。
廃墟から立ち上がった先人たちの平和への思いは
今もなお、広大人のDNAとして、
脈々と受け継がれています。

建学の精神
自由で平和な一つの大学

広島大学理念5原則
- 平和を希求する精神
- 新たなる知の創造
- 豊かな人間性を培う教育
- 地域社会・国際社会との共存
- 絶えざる自己変革



1945(昭和20)年11月に撮影された東千田町の広島文理科大学付近の様子。爆心から約1.5kmの木造校舎は倒壊・全焼した。(米軍撮影、米国立公文書館所蔵)



初代学長・森戸辰男。衆議院議員、文部大臣を経て、1950(昭和25)年、広島大学の学長に。以後、13年間にわたって広島大学発展の礎を築いた。日本育英会会長、中央教育審議会会長などを歴任した。

統合移転前(1981年)の東千田キャンパス。

1983(昭和58)年の東広島キャンパス。広島市内から最初に移転したのは工学部だった。

《広島大学のあゆみ》

1874(明治7)年	7月 1日	白島学校(広島師範学校の前身)の創設
1945(昭和20)年	8月 6日	広島に原子爆弾投下 包括校の死者1,930人(教職員310人、生徒1,620人) ※2016年8月現在
1949(昭和24)年	5月31日	新制広島大学の設置 旧制の諸学校を包括・併合し、文学部、教育学部、政経学部、理学部、工学部、水畜産学部の6学部および教養部、附属図書館、理論物理学研究所をもって発足
1950(昭和25)年	4月19日	元文部大臣森戸辰男が初代学長に就任
1950(昭和25)年	11月 5日	広島大学開学式 「自由で平和な一つの大学」にすることを森戸学長が表明
1953(昭和28)年	8月 1日	医学部設置(県立広島医科大学の移管)
1956(昭和31)年	1月20日	広島大学学章の制定
1957(昭和32)年	11月 5日	広島大学歌を発表
1965(昭和40)年	4月 1日	歯学部を設置
1973(昭和48)年	2月 8日	広島県賀茂郡西条町(現東広島市)に統合移転することを正式決定・公表
1974(昭和49)年	6月 7日	総合科学部を設置
1995(平成7)年	11月 1日	広島大学統合移転完了記念式典を開催
2002(平成14)年	10月25日	中国・北京に初の海外拠点を設置
2004(平成16)年	4月 1日	国立大学法人広島大学の発足
2013(平成25)年	9月20日	広島大学病院新診療棟を開院
2016(平成28)年	3月28日	東千田キャンパスに東千田未来創生センターを開所

ええね! 廃墟の中から不死鳥のように立ち上がった大学

1874(明治7)年に設立された白島学校(広島師範学校の前身)をはじめとし、広島大学はわが国でもっとも多くの前身校を持つ大学です。それだけに、1945(昭和20)年の原爆投下の影響は大きく、前身諸学校は爆風によって破壊されたり、焼失したりしました。関係者の原爆死没者数(1945年末まで)は、確認されているだけでも676人にのぼります。

1949(昭和24)年に前身校を統合して、新制「広島大学」が誕生します。「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」と原爆死没者慰霊碑の碑文に撰述・揮毫した雑賀忠義・教養部教授をはじめ、多くの本学関係者が、原爆・平和問題に取り組んできました。

初代学長に就任したのは、元衆議院議員で文部大臣でもあった森戸辰男です。森戸は、「平和都市広島にふさわしい大学をつくりたい」という思いを胸に、世界各国の大学に平和関係図書と樹木の寄贈・寄附を求めます。前者は図書館の平和文庫に、後者は大学の緑化につながっていきます。

本学の平和と復興への思いは、学章にも色濃く反映されています。復興のイメージである緑色を基調とし、エジプト神話に出てくるフェニックスが不死鳥であることになぞらえ、フェニックスの葉をデザイン。学章は廃墟の中から立ち上がった本学の歴史を如実に象徴しています。

ええね! 平和を希求する精神は広大人のDNA

広島大学を特徴づける教育といえば、「平和科目」が挙げられます。他大学ではあまり見られない授業ですが、本学では必修科目。「戦争」「原爆」にとどまらず、その背景にある「貧困」「経済格差」「宗教」「歴史」「環境」など、現代社会が直面しているさまざまな問題に、平和というテーマを組み合わせた独自の内容で、2016年度は23科目を開講しています。被ばく地ヒロシマに開学した大学として、「平和を希求する国際的教養人」を育成することが本学の使命だと考えています。

また、2011(平成23)年に発生した東日本大震災と福島原発事故では、本学が緊急被ばく医療支援の大きな役割を担いました。派遣スタッフは延べ1,300人を超えます。学生たちも継続的にボランティアの「つながり隊」を組織し、被災地へ赴いています。建学の精神「自由で平和な一つの大学」と理念5原則のトップに掲げる「平和を希求する精神」を具現化した取り組みの一つです。

溝渕園子准教授（大学院文学研究科）のゼミにはさまざまな国籍の院生が在籍。日本と諸外国の文学上の相互関係について、自由なテーマで文献を読み解き、互いに議論し、多様なアプローチから研究を進める。

特集 広大ここがええね! 02: 教育＋人材

海外派遣プログラムや到達目標型教育、常に世界を視野に入れながら国際的教養人の育成に努める。

世界各国からの留学生の受け入れや、学部1年生からの海外派遣など、国際交流・異文化交流を積極的に進めています。また、世界標準の教育評価・入試を導入して平和を希求する優れた人材の育成に取り組んでいます。

STARTプログラム:インドネシア・シンガサリ寺院にて。現地大学での授業の他、遺跡見学や芸術体験を通じて文化や伝統の多様性を学びます。

年間約540人が海外へ

広大発世界

(2015年度実績)

世界70か国・地域から1,191人の留学生を受け入れ

世界発広大

(2016年5月現在)

2023年 広島大学はこうなっている

※広島大学がスーパーグローバル大学創成支援事業の構想調書に掲げた目標値です。

	2013年	2023年	
外国人教員等数	439人	901人	教員の53%が外国人など
留学生数(通年)	1,678人	3,600人	留学生の割合が20%
日本人学生の留学経験者数	423人	1,587人	高い国際流動性
外国語授業数	516科目	4,868科目	授業の50%が外国語

ええね! 短期から長期留学まで世界各地へ派遣するプログラムを用意

広島大学がこれまでに締結した大学間協定は43カ国・地域の178機関。研究交流や留学生交換などを積極的に実施しており、学生の約13人に1人が留学生。キャンパスそのものが国際交流の場となりつつあります。

一方では、年間約500人超(2015年度)の日本人学生が、多様な海外派遣プログラムを活用して、世界で学んでいます。例えば、海外経験の少ない学部1年生が対象の「STARTプログラム」。本学と協定を締結した海外の大学で現地学生との異文化交流を通じ、国際交流や長期留学への関心を高めます。大学が参加費用の一部を補助し、インドネシア・オーストラリア・アメリカなどへ年間約250人(学部1年生の1割以上)を海外に派遣しています。参加学生からは「新たな視点を持つきっかけになり、今では大切な財産の一つ」といった声も聞きます。

そのほか、語学研修、交換留学、海外インターンシップなど、学生の希望に沿った幅広い留学プログラムがあり、世界に挑戦する学生たちを応援しています。

ええね! 授業で身に付いた能力が目に見える

広島大学が独自に開発した教育システム「到達目標型教育プログラムHiPROSPECTS(ハイプロスペクツ)®」。これは、卒業するまでに身につけておくべき知識や能力を「到達目標」として明示し、従来の「優」や「可」といった成績評価に加え、所属する主専攻プログラムが掲げる到達目標に、どの程度到達したかを、半期ごとに3段階で評価するものです。この到達目標型教育プログラムにより、学生一人ひとりに焦点を当てたきめ細やかな能力評価を実現。具体的にどういう能力がどの程度身についたかを定期的に把握でき、次学期以降の履修計画に役立てることができます。

ええね! 世界標準の教育評価・入試を導入

教育の国際的なクオリティを保証するため、主にアメリカのトップクラスの大学が参加しているSERUコンソーシアムに加盟し、世界共通の学生調査を実施しています。海外トップレベル校と比較しながら広島大学の立ち位置を確認し、教育改善を実施。2015年度の調査では、海外大学生と比べ、予習・復習にかける時間の確保が本学の学部生の課題であることがみえてきました。

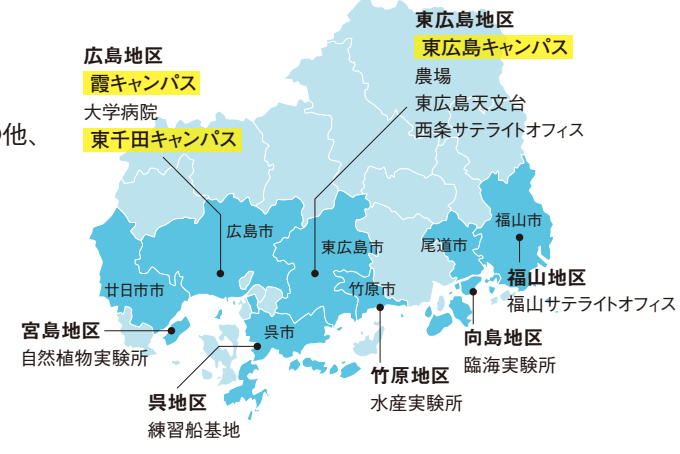
また、2016年度実施の学部入試から、国際バカロレア(IB)資格取得者を対象とした入試を実施します。国際バカロレア・ディプロマプログラム(DP)修了者は、国際的にも評価を得ており、本学が取り組む「平和を希求する国際的教養人」の育成という点で、有望な人材として期待できます。

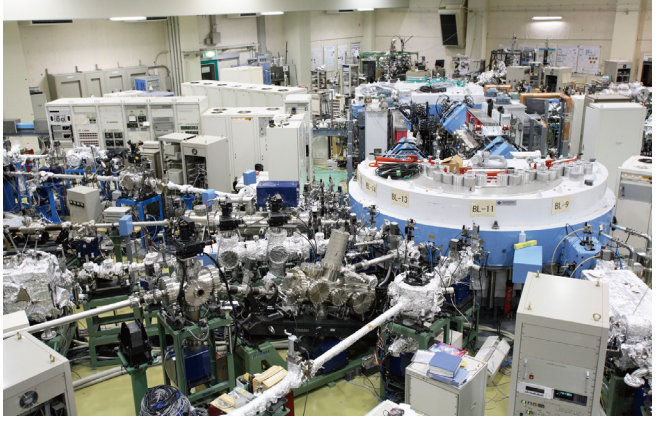
広島大学の図書館は、3キャンパスを合わせて5館。全館合わせて約348万冊の蔵書を有する全国有数の図書館だ。

特集 広大ここがええね! 03: **ロケーション＋施設**

世界トップレベルの総合研究大学を目指す。その志に相応しいキャンパスがある。

東広島キャンパスだけでも敷地面積は約249ha。
これは東京ドーム約53個分に相当します。
広島市内の霞・東千田キャンパスを合わせた3つのキャンパスの他、
広島県内に11学部11研究科をはじめ、病院、図書館、
多数の特色ある教育研究施設を構えます。





放射光科学研究センターは、1996年度に発足した国立大学では唯一の放射光実験施設だ。

広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台。天体からの微弱な光を捕らえ分析し、宇宙や天体の構造・進化を研究している。2006年5月開所。

広島市南区の霞キャンパス。医・歯・薬学部、大学院医歯薬保健学研究科が設置されている。敷地内に広島大学病院や原爆放射線医科学研究所なども併設。中国・四国地区の最先端医療の中枢であり、教育・研究・臨床の情報拠点としての役割を担っている。

ええね! 広島市内に学びの拠点が誕生 世界に誇る研究施設も充実

2016年3月、広島市中心部の東千田キャンパスに誕生した鉄筋4階建てのビル。名称は「東千田未来創生センター」。ここでは医・歯・薬学部の1年生の約400人が教養教育を受講しています。その後、専門科目が増える2年生からは大学病院を併設する霞キャンパス（広島市）で主に学びます。従来は東広島キャンパスで受けていた教養教育の多くを広島市内で受けられるようになったため、入学当初から広島市に生活拠点を置けるようになりました。将来的には、社会人大学院教育や広島市内の他大学との連携事業の拡大なども想定。都心部にある利便性を生かした「学びの拠点」としての期待が高まります。

345人を収容できる大講義室を含む講義室10室のほか、テーブルごとにホワイトボードを設置したグループワーク室、少人数用の研究室などを備える。

広島大学が世界に誇る最先端の研究施設は数多くあります。たとえば、原爆放射線医科学研究所では被ばく医療と放射線人体影響の研究を推進。放射光科学研究センターでは物質のもつさまざまな性質に放射光を用いてアプローチ。いずれも文部科学省により共同利用・共同研究拠点に認定され、国内外に開かれた研究施設として多くの研究者に活用されています。

ええね! 研究者の心を揺さぶる希少文献を多数所蔵

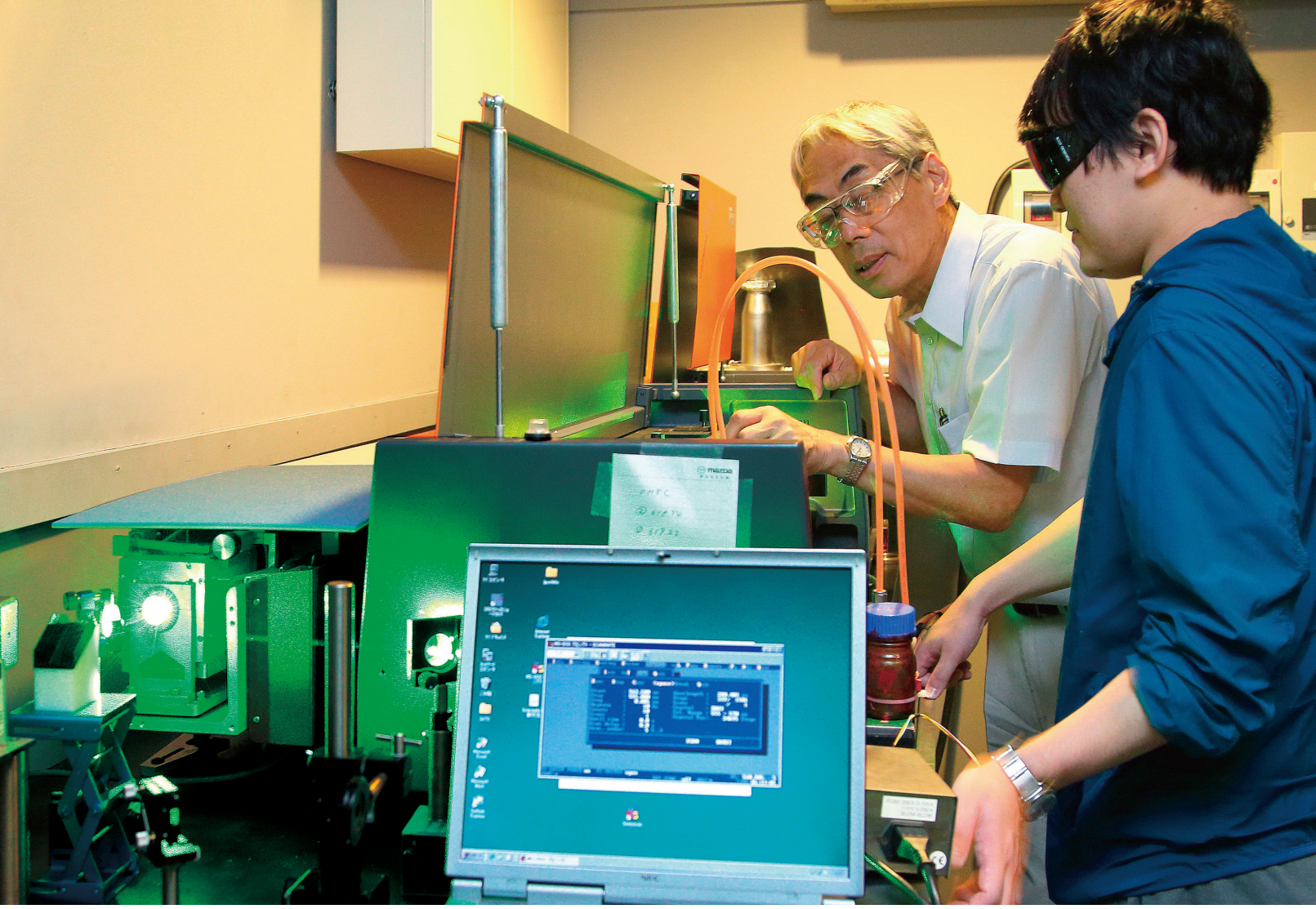
図書館の希少文献にも注目です。中央図書館所蔵の1827（文政19）年の「庭訓往来」（寺子屋で使用）や、1872（明治5）年の福澤諭吉「学問のすすめ」など、江戸時代の往来物から現代の教科書までを集めたものはその代表です。

その他にもマルクスの「資本論」第1巻初版本やフランス語版の「資本論」初版本など、社会科学関係の貴重な資料を多数所蔵しています。

2014年には中国・四国地区の大学で初めて自動書庫システムを導入しました。約87万冊が収納でき、パソコン操作により、数分で資料の出し入れが可能となりました。

ええね! 超新星の発見やブラックホールの研究で成果をもたらす天文台

口径1.5mの「かなた」望遠鏡を備えた施設として知られるのが広島大学宇宙科学センターの「東広島天文台」です。他の研究機関との協力体制のもと、観測史上最大級の明るさの超新星の発見や超巨大ブラックホール周辺の構造解明など、数々の成果をもたらしています。

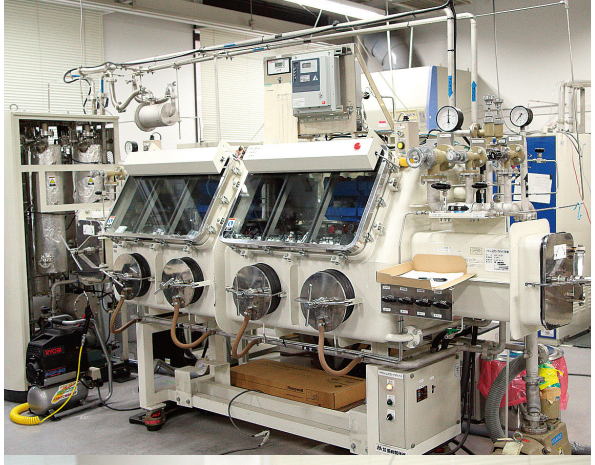


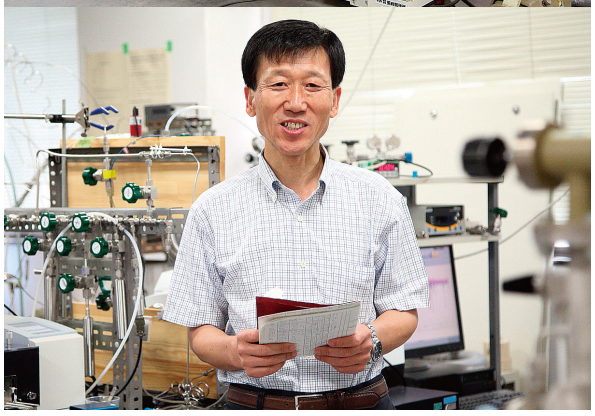
江幡孝之（大学院理学研究科・化学専攻）教授の専門は分子集合体や機能性分子のレーザー分光研究。「レーザー二重共鳴振動分光による機能性分子や分子クラスターの構造の研究」で日本化学会第25回学術賞を受賞した。

特集 広大ここがええね! 04：研究＋産学官連携

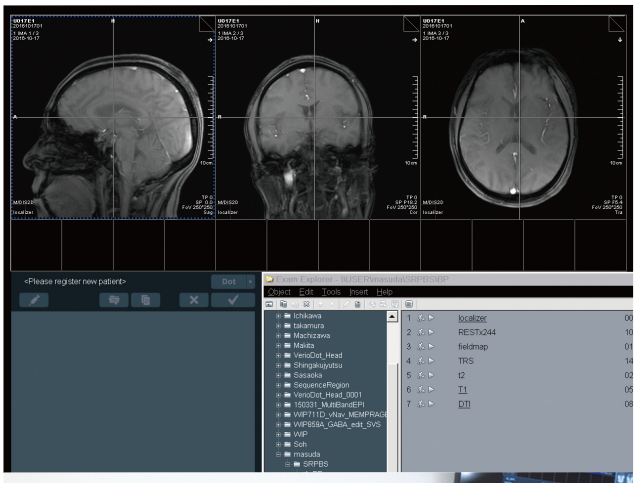
企業との共同研究数は年間約370件。共同研究から社会実装まで一貫して取り組み、研究シーズを積極的に社会へ。

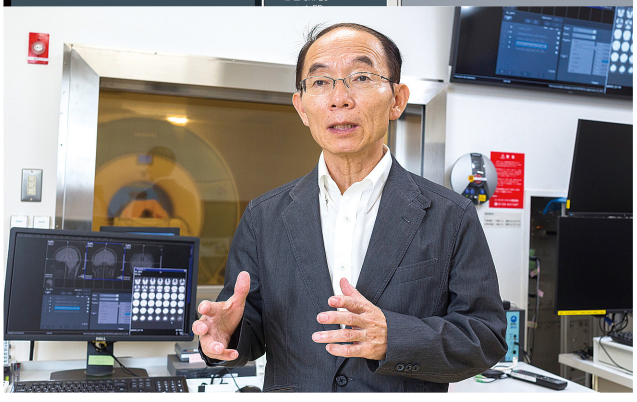
広島大学では、専門分野の枠を超えて、
世界が注目するユニークなテーマに挑戦。
成果を社会に還元するため、産学官の“知”を結集して、
社会のニーズに応えます。





小島教授のアンモニアから水素を取り出す実験では、アンモニアガスを触媒で分解し、水素と窒素の混合ガスを生成。微量に残るアンモニアを極限(0.1ppm以下)まで取り除く驚くべき技術だ。





山脇教授は「fMRIや脳波を用いてワクワクしている時の脳の動きをとらえることが可能となりつつある」と語る。マツダと連携して運転状況を模した環境下での脳活動を計測することにより感性の可視化技術の開発とその社会実装にチャレンジしていく。

ええね! 世界から熱視線! “車の未来”はここにある

先進機能物質研究センター長の小島由継教授は、アンモニアから燃料電池自動車の燃料に使える99.97%の高純度の水素を取り出す実験に世界で初めて成功。昭和電工、産総研、豊田自動織機、大陽日酸と協同して、燃料電池自動車用水素ステーションでの実用化に向けて動いています。アンモニアを水素燃料に利用できれば、CO_2削減に大きく貢献すると期待されます。

大学院医歯薬保健学研究院の山脇成人教授は、うつ病の脳科学研究の第一人者ですが、現在、文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(COI)で、これまで客観的に数値化することが困難とされてきた「ワクワク」「うれしい」といった感性を脳科学の観点から可視化(見える化)する研究とその技術の社会実装に取り組んでいます。感性工学を長年研究してきた自動車メーカー・マツダが参画しており、「ワクワク」する車の開発につながることが期待されます。また、TOTO、サッポロホールディングス、凸版印刷、コベルコ建機などの企業も参画しており、衣・食・住の幅広い分野で感性可視化の社会実装を目指します。

このほかにも、化工物性、教育学、外科系歯学などの研究分野が広島大学の強みであり、文部科学省の科学研究費助成事業において、過去5年間(2011～2015年度)の採択件数が全国1位です。

ええね! 産学官の知を結集させ「社会に役立つ」研究を

企業などの研究者と行う「共同研究」の件数は、年間約370件。さまざまな産学官連携商品が生まれています。2015年6月には、自動車メーカー、広島県や広島市と共同で県内自動車産業の活性化を目指す「ひろしま自動車産学官連携推進会議」が発足し、広島ならではの産学官連携として注目されています。

企業などからの継続的なニーズに対応できるよう、これまでに企業25社を含む66件の包括的協力協定を締結し、組織的にも研究や人材育成に取り組んでいます。

2016年に締結した包括的協力協定 締結企業など

- オタフクソース株式会社(2月)
- 医薬品医療機器総合機構(3月)
- 広島県中小企業診断協会(4月)
- 復建調査設計株式会社(5月)
- 福山通運株式会社(5月)
- コベルコ建機株式会社(6月)
- 株式会社にしき堂(7月)
- 株式会社前川製作所(9月)
- 4者協定(広島大学、広島県障害者スポーツ協会、特定非営利活動法人STAND及び広島県)(10月)

前川製作所との協定調印式

日経サイエンスが見た広島大学

**世界のトップ100大学に向けて挑戦する広島大学の取り組みを
シリーズで紹介し、将来性を探っていきます。**

月刊誌「日経サイエンス」は、科学・技術に関する話題の最新情報と知識を専門以外の読者にわかりやすく解説しています。研究者、ビジネスパーソン、学生が、科学技術の世界の視野を広げるために購読しています。2016年9月に創刊45年を迎えました。

個の力を組織で支える広大式の研究拠点づくり

理学、医学、工学などそれぞれの分野で世界的に高い研究力評価

いま大学の置かれている環境を一言で表すとすれば、それは「競争」だ。他大学に先駆けて独創的な研究論文を発表しなければ、潤沢な研究資金を得ることができない。そして資金のあるところには優秀な研究者が集まる。

こうしたなか、広島大学が目指すのは10年間で「世界のトップ100大学」に入ることだ。英国の大学評価機関「Quacquarelli Symonds」(QS)が発表している「世界大学ランキング(2016-2017年版)」によると広島大学は日本の大学のなかでは12番目で、ランキングでは297位。100位はやや遠いようにも思えるが広島大学は「本気」だ。

広島大学の吉田総仁理事・副学長(研究担当)は「論文の引用件数などから研究力を客観的に評価した指標によると、広島大学は宇宙科学、再生医療・ゲノム編集、材料科学・機械工学などで世界的にも高く評価されている。この強い面を生かし、弱点を克服するなど、研究大学としてのパフォーマンスを上げていけば、目標も視野に入ってくる」と話す。

研究大学強化促進事業で研究体制改革に挑戦

こうした広島大学の取り組みをサポートするのは、2013年に文部科学省が発足させた「研究大学強化促進事業」だ。高い研究力を持つ大学や機関に対して、マネジメント人材の確保や環境改革といった研究力強化への取り組みを10年間支援する。

広島大学の取り組みも認められ、この事業への採択が決まったが、事業への応募は大学の研究体制を見直す大きなきっかけにもなったという。吉田理事・副学長は「研究論文や科研費の採択など客観的な指標については自信があったが、課題は研究力の強化を具体的にどう提案するかだった」と話す。

広島大学では、学内を徹底的に検証。どのように改革を進めるのか知恵をしぼった。例えば、論文投稿の分布を調べたところ、どんな分野も50%の論文はわずか10%の人によって書かれていることが分かった。教育も重要だが、研究を中心としている人の層を厚くしないと世界のトップ100になれないというわけだ。このほか研究者の時間の使い方、研究者コミュニティー・ネットワークの状況などさまざまな領域を調査し、研究力強化の取り組みを提案。それが現在の広島大学の改革の「土台」になったという。

研究者を強力に支援するURAの組織化

2012年より行われてきた研究体制の改革は、「研究推進機構」が全学の組織として中心になってすすめられるが、重要な取り組みの一つがURA(University Research Administrator:研究活動のマネジメントを行う人材)の組織化による、研究者を支援するシステムだ。URA

吉田総仁 理事・副学長(研究担当)

広島大学が主体となって開催した「国際神経精神薬理学会(CINP)第30回世界大会」

は「資金の調達・管理」「研究戦略・戦術の企画立案」「国際研究活動支援」といった業務を担当する。欧米では充実しているシステムだが、広島大学には本格的なものはなかった。一から作り上げるつもりで、優秀な人材を投入したという。研究支援だけでなく、URAがリードして外部資金を調達したり外部から見た研究の方向性を提案するなど幅広い役割を期待している。

研究活動のIR（Institutional Research）も強化した。これは研究者のアクティビティーを分析・評価し、次の活動に生かす活動で、広島大学では早期から行ってきたが、それを可視化して戦略的な見方ができるようにした。例えば、研究活動で業績を上げている人もいれば、教育に熱心な人もいる。「それぞれが最適な方向に進んで、大学全体としてのアクティビティーが高まっていけばいい」（吉田理事・副学長）というわけだ。

研究者の評価では、特に優れた研究を行う教授職をDP（Distinguished Professor）、若手教員をDR（Distinguished Researcher）に認定し、専任のURAを配置するなど研究力強化のリーダーとして活躍できる支援体制を整備している。「Distinguished Professor」は一般的に言えば、かなりレベルの高い称号だ。大学もノーベル賞候補者として毎年のように名前が挙がるような研究者であるとPRすることも重要だ。

広島大学を世界に発信 新たな研究拠点育成制度

広島大学を世界に飛躍させるために、もっとも重要な取り組みの一つが「研究拠点」づくりである。複数の研究者が集まることで新たな領域の研究を生み出したり、社会に役に立つ成果を得るというものだ。吉田理事・副学長は「研究者の新たな発想に基づく新プロジェクトを戦略的に育てる試みが弱かった」と話す。

そこで、「研究大学強化促進事業」を利用して立ち上げた制度が「研究拠点育成・選定システム整備」だ。さまざまな分野の研究者が集まったプロジェクト型の研究拠点を「インキュベーション研究拠点」として公募。採択した研究拠点には約600万円の活動資金などの支援を3年間行う。これまで毎年20件ほどの応募があり4〜5件採択されている。

インキュベーション研究拠点は時限的なプロジェクトだが、大学ではこの間に実績を上げ、外部資金などを調達できる独立した研究拠点に育ってほしいと考えている。こうした研究拠点では大学として認定した研究拠点という「看板」を得て、国内外の大学、研究機関、企業との共同研究も行われやすくなる。それが現在では6つある「自立型研究拠点」で、まさに広島大学を代表する研究拠点と考えていい。

世界に向けて英語で発信する研究が増えるなか国際化へのサポートも課題だ。そこで図書館にライティングセンターを設け、学生や若い研究者に英語論文の書き方、編集者からの指摘への対処法などについて個別相談を受けたりセミナーなどで情報を提供している。

また、各拠点を中心に国際会議招致も積極的に行っている。昨年夏に広島観光コンベンションビューロー、広島市と包括協定を締結。今年に入ってからは東広島市に芸術文化施設「くらら」がオープン。大学も国際会議開催に際し、財政支援を行っている。国際会議開催は、レピュテーション向上を図り、国際共同研究・国際共著論文の増加が期待できる。

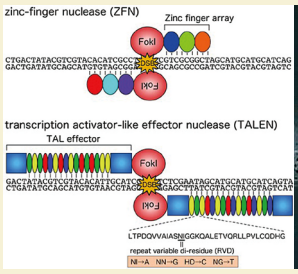
「世界のトップ100大学」を目指してから4年目。吉田理事・副学長は「皆が十分な研究時間を持ち、しっかりとした研究を行える環境ができたのか。その結果として優秀な人材を社会に輩出するという、もっとも大切なことを忘れずに改革を続けたい。そして国際社会・地域社会において存在感のある大学を目指す」と話している。

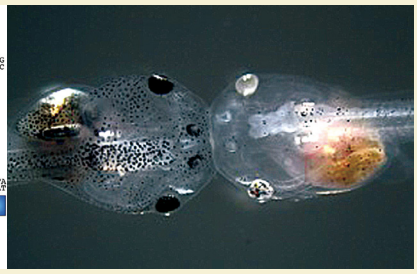
この広大方式は、他大学と比べてもユニークだ。こうした取り組みを研究成果とともに広く社会に発信していくことで、さらに注目を集める大学になるだろう。

取材・文／日経サイエンス

「X線マイクロアナリシスアナライザー（EPMA）」などの最先端の共同研究設備を構える

世界唯一の技術であるヒト肝細胞キメラマウスを使用した肝炎ウイルスのリバースジェネティクスを利用し、肝炎の新規治療法の開発を目指す「広島肝臓プロジェクトセンター」





「ゲノム編集研究拠点」では、生命現象の解明や再生医療に応用できるゲノム編集技術の確立に挑む

自立型研究拠点

2016年10月現在

クロマチン動態数理研究拠点
ゲノム編集研究拠点
広島肝臓プロジェクト研究センター
社会実装指向HiSENS拠点
窒素循環エネルギーキャリア（Nキャリア）研究拠点
うつ病の革新的診断・治療法開発研究拠点

研究者魂

デジタル、アナログ総動員で未知の活断層を探し出す。

ドローンの登場で、地理学の世界も大きく変わった。あらゆる角度からの地表画像を自由に撮れる。しかもヘリなどの空撮に比べて画像の質も格段に向上。どんどん小型化し、扱いやすくなっている点もいい。

後藤 秀昭

HIDEAKI GOTOU

大学院文学研究科
地表圏システム学講座
准教授

熊本地震で、「三次元の激しい揺れ」に驚愕

2016年4月14日午後9時26分、M6.5の地震発生の報を受けた翌朝、後藤秀昭准教授は、同じく広島大学の中田高名誉教授、熊原康博准教授とともに熊本に向け出発する。その日は「布田川断層」を調査。明確な変位がないことを確認して市内のホテルに帰り、翌日の帰広に備える。ところが16日未明、M7.3の大地震が後藤准教授たちを襲う。

「これには心底驚きました。普通、縦揺れとか横揺れとかいいますが、そのレベルじゃまったくありません。たとえれば、三次元の揺れとでもいうべきでしょうか。ぐるぐる振り回されて、生きた心地もしませんでした」

16日は早朝から布田川断層の再調査を開始。この調査で、主断層から分岐した、別の活断層の存在を示す新たな痕跡を発見する。帰広後の記者会見で「この分岐断層が壊滅的な益城町中心部の被害を起こしたと考えられる」と述べる。

写真や図を示しながら、活断層について語る後藤准教授。「未知の活断層ゼロ」への思いは熱い。

その後、5月に熊本を再訪した後藤准教授たちは、「熊本市中心部に新たな活断層とみられるズレを発見した」と報告。そのきっかけは、名園水前寺公園の水位の低下で、活断層との関連を今後も調査するという。

海でも陸でも、未知の活断層をなくしたい

後藤准教授は、地理学の専門家であり、なかでも地形学、特に活断層の研究においては常に脚光を浴びる存在だ。

「現在の地形ができてきた歴史をひも解くなかで、特に地震によってつくられた地形に注目し、過去の大地震について検討しています。地理情報システム（GIS）を用いた地形や地域の分析も進めています」

多くの家屋が倒壊し、甚大な被害をもたらした熊本地震。現地で地表地震断層を調査する後藤准教授。確認された断層のズレは大きく、地震の激しさを物語っている。

後藤准教授の肩書きに「地表圏システム学講座」とある。このうち、地理学分野では、活断層調査や地理学的調査を、コンピュータ解析などによって、より科学的にスピーディに行うという。

「たとえば、活断層調査なら、GISのほかに自分たちでドローンを飛ばしたり、独自の方法で撮影したデータから、地形を数値化して地形画像に置き換える。これができるようになって、迅速に地形の変動と活断層の実態がわかるようになった。ここ10年ぐらいでこの分野の研究は大きく変わりました」

この研究の意義を問うと、「おもしろいからやっている」と返す。「ただ、実際に役に立たなかったら少々へこむでしょうね」ともいう。「仮説をたてて、それをフィールドワークで実証する。そのプロセスが楽しいのですよ」。

今後の目標について抱負をこう語る。

「海底の地形も船舶から詳細なデータがとれるようになりましたので、こちらもなんとかなる。近い将来、海でも陸でも、未知の活断層をゼロにしたいですね」

こちらは少々アナログ。「ハイビュー」と呼ばれる一見自撮り棒のお化けのような長い棒の先端にデジカメをつけて、一番撮りたいアングルの地表写真をカシャカシャする。7mと10mタイプがあって、大体のロケーションには対応できる。

後藤先生に一問一答 Q&A

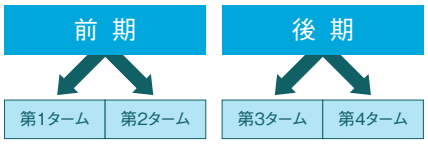
Q 趣味は?
A 家庭菜園、ヨガ、読書、木材加工
Q 休日はどんな過ごし方を?
A 畑仕事、図書館、子どもの行事、料理
Q 好きなタレント、芸能人は?
A 竹内まりや、山下達郎、笑福亭鶴瓶
Q 好きな広島の「食」と、その理由は?
A お好み焼き。学生時代は重要な栄養源でした。手軽でおいしい。来学の研究者があれば必ずお連れします。
Q 少年時代の夢は?
A コック、科学者、教師
Q 尊敬する人物とその理由は?
A 伊能忠敬。地図作りの先達。謙虚に学び、知恵を働かせ、好奇心とバイタリティーにあふれている。
Q 得意なスポーツは?
A 特別にありませんが、子どもの時にやっていた卓球ですかね。
Q 先生の学生時代と比べて、現在の学生たちの異なっている点、変わっていない点は?
A 異なる点:（授業の教室以外で）研究室に姿を現す学生は少なくなった。対面の交流が乏しい気がします。変わらない点:ここぞ、という時の底力は昔からの広大生気質。
Q 広島大学で学ぶ学生のご家族に一言お願いします
A 学生に有意義な時間を過ごしてもらうために、可能な限りのご支援をお願いします。
Q 1カ月休暇がとれたら、何をしたい?
A ロシアのダーチャのような菜園そばのセカンドハウスを作りたい
Q 好きな言葉、座右の銘は?
A 苟日新、日日新、又日新（「大学」より）〈毎日、新しい日。充実した時間を過ごし、進歩したい〉

ごとう・ひであき
●学位／博士（文学:広島大学）、修士（文学:広島大学）●研究キーワード／活断層、地形学、地理情報システム、数値標高モデル、中央構造線●代表的な学術論文／中央構造線活断層系（四国）の最新活動時期からみた活断層系の活動集中期、四国の中央構造線活断層系—詳細活断層線分布図と資料●受賞／2012年度地理学会賞（社会貢献部門）、2008年度日本地震学会論文賞

世界の大学と共通性が高い クォーター制の導入で 教育効果のさらなる向上を。

広島大学では、2014年度まで実施していた「前期」「後期」のセメスター制の授業に加え、2015年度から4学期制のクォーター制を設けて授業を実施しています。このクォーター制は海外の大学では珍しくありません。世界とのギャップを埋めることも制度導入の理由の一つです。たとえば、日本は春に学年がスタートしますが、海外では秋スタートが主流。日本からの留学、海外からの留学生の受け入れも、このズレがネックになっていましたが、クォーター制ならクリアできることになります。

クォーター制とは?



クォーター制（4学期制）では、従来の前期・後期の授業期間をそれぞれ前半・後半の2つの期間に分けた「第1タームから第4ターム」を設けて授業を実施します。この制度では、1科目を週に2コマ実施するので、学生は各タームで1週間に学ぶ学問領域が半減、そのため、集中的に学ぶことによる教育効果が得られます。

教 員 の 声

グローバル化に対応した 教育環境が つくられつつあります。

小澤 孝一郎 副理事（教育企画担当）

クォーター制導入の意図

クォーター制導入の目的・意義の一つとして、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上があげられます。つまり、1科目に対して重点的に予習・復習などを行うことができるようになり、学生の主体的な学修が図られます。また、履修方法を工夫することで、留学やインターンシップ、ボランティア活動などに参加しやすくなり、学生の自主的な学習体験が促進されることも導入の目的の一つです。

グローバル化へ一直線

クォーター制の導入により、本学の学生が海外留学しやすくなるのはもちろんですが、海外から留学生を受け入れやすくなるメリットもあります。また、学生交流だけでなく、著名な教員を海外から短期間招聘できるなど、広島大学の教育活動が国内外において柔軟に展開できるようになります。さらに、ボランティア活動など、さまざまな活動への展開も期待できます。2016年度から本格的にクォーター制を開始したこともあり、本学の教育が目に見えて変化したとはまだ言えませんが、これから徐々に国際的な流動性が高まり、グローバル化に対応した教育環境がつくられていくでしょう。

教育方法が拡充

薬学部の例ですが、同じセメスターで開講していた積み上げ型の科目を別々のタームで開講したことにより、学修の順次性が確保されるようになりました。また、これまでの90分ではなかなか実施が困難であった、PBL（problem based learning）などのアクティブラーニングが導入可能となり、教育方法の拡充につながっています。

学 生 の 声

留学を意識し始めたことも クォーター制のメリットの 一つだと思います。

生物生産学部生物生産学科2年 **梅木 雅美**

短期集中型の講義

今までは1年を前期と後期の2期に分けてそれぞれで講義を受けていました。クォーター制によって、その2期をさらに半分にして、4タームに分けるようになりました。ターム制の講義では、今までの半分の期間で同じ講義を受けるため、週に1コマ分だったのが2コマ分受けるようになったことが一番の変化だと思います。

もちろん、クォーター制になったから、何かが大きく変わったということはありません。留学は、「STARTプログラム」でインドネシアに行きましたし、ボランティア活動も過疎地域の農作業のお手伝いに行った経験があります。ただ、クォーター制になってより留学をしやすくなったと聞き、改めて留学制度について詳しく調べてみたいと思うようになったことも事実です。

メリットもデメリットも

セメスター制（前期・後期制）のメリットは、クォーター制に比べてゆとりがあること。一つの教科に時間をかけてゆっくりと勉強できます。デメリットは、テストまでの期間が長いため、しっかり復習をしていないと最初の方で受けた講義内容を忘れがちになることです。

クォーター制のメリットは、今までの半分の期間で同じ量の勉強をするため、記憶が新しいままテストをむかえられること。また、1タームに実施されるテストの教科数が少ないため、一つの教科にしっかりとテスト勉強ができることもメリットの一つです。デメリットは、テストの実施期間が増えるため、サークルやバイトなどの予定が立てにくいこと。また、セメスター制の授業とクォーター制の授業があるため、履修の調整が難しいということもあります。

キャンパス散歩

工学部門柱

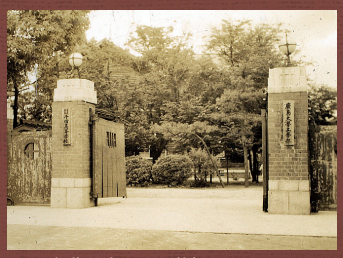
１００年の歴史を背負って ここに建つ門柱がある。

赤煉瓦の門柱に白い大理石がはめられていて、周辺の緑の木々が風に揺れている。時々、学生や教職員が、脇を通っていく。門柱の奥に工学部の棟が立ち並ぶ。この門柱は、前身校である広島高等工業学校時代から存在し、東広島キャンパスへの移転に伴い、現在の場所に身を置くこととなった。移転から35年近くが過ぎた今、工学部の建物群自体がすでに深い歴史の中の一部となっている。

もちろん、およそ100年の歴史を背負う門柱は、貫禄が違う。

「35歳なんて、まだまだ若造よ。わしなんか、原爆の大火をも目の当たりにしてきたんだぞ」と、静かに語りかけているようにも見える。

来学者が思わず カメラを構える撮影スポット、工学部のシンボルだ。


1950年代前半頃の工学部正門

1981年の工学部正門

等身大の広大生のスタイルを紹介するコーナー

HU -style

Vol. 1：部活・サークルに打ち込む広大生

広島大学には全国大会に出場する部活から、趣味を楽しむサークルまで230を超える団体があります。今回は「大学に入ってから挑戦した！」という声が多かったスポーツや活動に打ち込む広大生の声を紹介します。

馬術部

東広島キャンパス南に位置する馬場で活動。朝5時から馬8頭の飼育や試合に向けた練習を行います。入学前は馬に触れたことすらなかった部員もいますが、指導者資格を持ったコーチや卒業生の指導の下、パートナーである馬と共に、技術を磨いています。馬術は“自分の思い”だけではどうにもならないもの。競技中、自分の気持ちが馬にうまく伝わった瞬間は鳥肌が立ちます。

HOT info 夏季中国四国地区学生馬術大会 総合優勝

No.1国立大学を目指して

かもめパワーで一致団結

トライアスロン部 Gulls

水泳・自転車・ランニングの3種目を連続して行うトライアスロン。天候によって波が変わる海や湖を泳ぎ、最高時速は50kmを超す自転車で風を切り、最後の力をふりしぼりゴールへ走ります。円陣の最後に、部の名前にもなっているGull（ガル＝かもめ）のポーズをするのが私たちの恒例。トライアスロンは個人競技ですが、チームであることを強く意識して、一体感を高めています。

HOT info 女子部員も在籍！

ラクロス部（女子）

ラクロスの魅力は「地上最速の球技」と称されるほどのスピード感。クロス（網の付いたスティック）のパス&キャッチに慣れさえすれば、もうラクロスに無我夢中です。私たちの強みは相手チームの分析をしっかり行うこと。普段は和気あいあいとしていますが、試合になれば、分析データを基に静かに燃えるチームスタイルです。

常笑広大

今年、遂に日本一!!

自動車部

平日は学内のピットで自動車の整備、休日はサーキットへ行き競技練習を行います。アクセル全開で駆け抜けたり、豪快なドリフトをしたりするのが醍醐味ですが、進入する速度調整や相手との駆け引きなど、緻密な計算が勝敗を左右します。自動車部の結成は古く、1958年。これからも自動車部は新しい時代を走り続けます。

HOT info 2016年度全日本学生ダートトライアル選手権大会●男子団体:優勝●女子団体:準優勝●男子個人:森岡誠(工学部3年)3位●女子個人:内田芹香(教育学部3年)2位

写真部

現在の部員は30人以上。機材も撮影テーマも各自異なります。月に1回は部で小旅行へ出かけて、楽しみながら腕を磨いています。その一部をご覧ください。

思いを、この1枚に

今日は、ちょっとステキな夜に

キャンドルサークル 灯

この夏、4回目となる七夕キャンドルナイトを開催しました。約2,000個のキャンドルを使い、東広島市内の公園に大きな灯りの天の川を作成。園児や地元の方には「お願いごと」を書いていただき天の川を彩りました。これからもキャンドルの優しい灯りにつつまれながら、ゆっくりとした時間を過ごせるようなイベントを計画していきたいです。

HOT info 12月に東広島キャンパス内にて毎年恒例のキャンドルナイトを計画中

水中ホッケーサークル Hiroshima Sha-rea

「水中でホッケーなんてできるの!?」私たちも始める前はそう思っていました。プレーヤーは水中に潜り、スティックを使ってボールをパスでつなぎゴールを目指します。攻守にわたり、激しく体力を消耗する水中ホッケー。水中では声かけができないことにも一苦労。練習で培った連携力がものをいいます。

HOT info 第13回水中ホッケー日本選手権大会 女子の部3位
※横田知佳(教育学研究科M2)、小山敦子(経済学部3年)がメンバーとして参加

手を伸ばせば届く!全国制覇

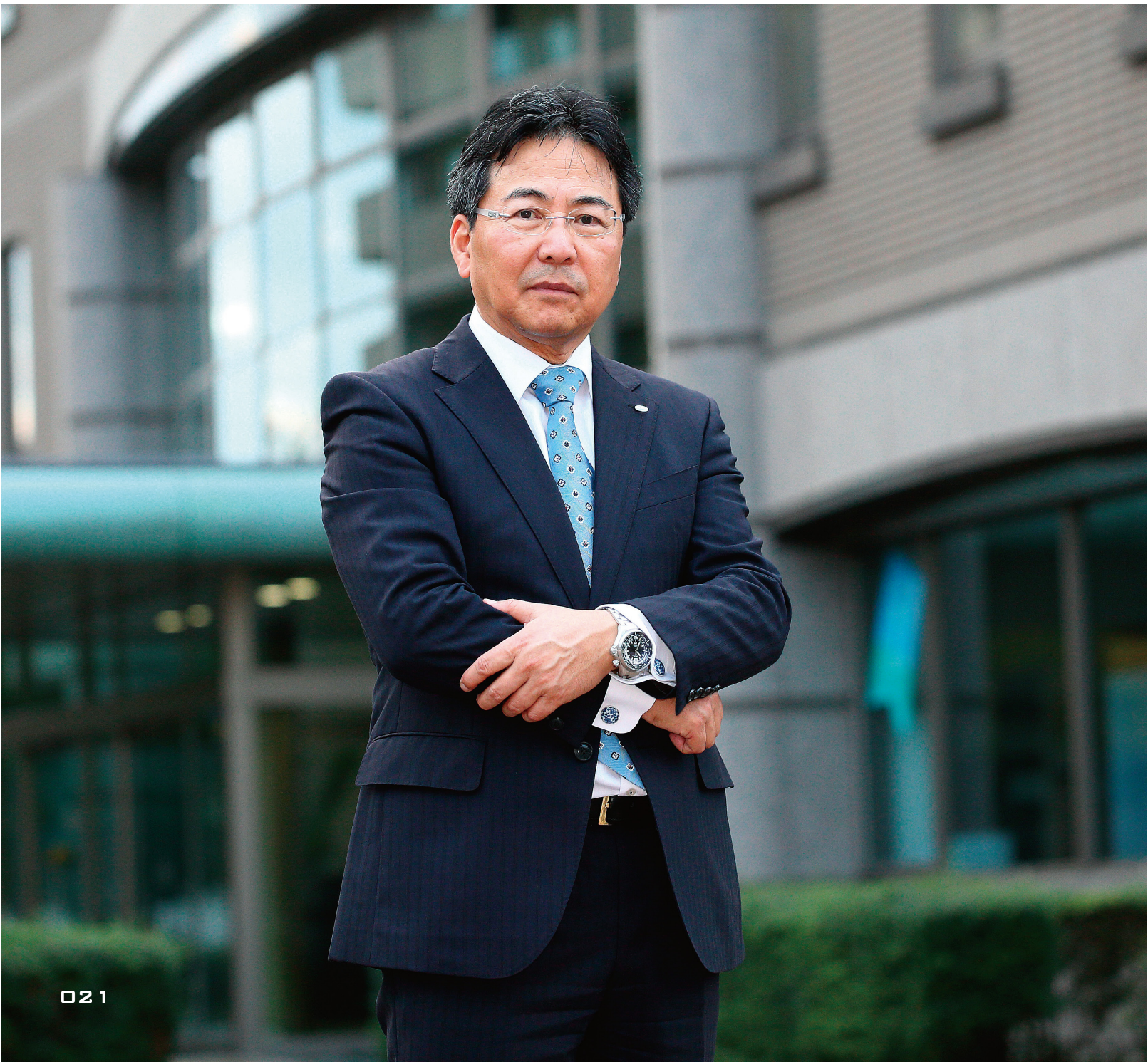
OB・OG インタビュー

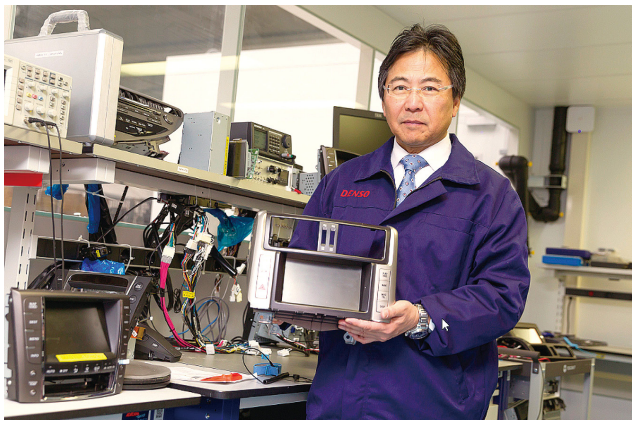
現役広大生による
取材・編集記事

●インタビュアー
小野 太一郎
理学部生物科学科4年

ヨーロッパの自動車業界に身を置きながら、20、30年後の未来技術を思案する。

デンソー・ヨーロッパCTO 株式会社デンソー 常務役員
中川 雅人さん
広島大学工学部第一類機械工学科 1979年度卒業／愛知県出身





統合移転前の東千田キャンパスで学ばれたという中川さん。広島大学で得たのは友だちのネットワークだという。

卒業後、半分の18年は海外暮らし 世界が注目する最高技術責任者

従業員数15万人、売上高4兆円超。株式会社デンソーは、日本を代表する自動車関連製品のメーカーです。そのグループ、デンソー・ヨーロッパのCTOを務められるのが中川雅人さん。1980年、機械工学科卒の大先輩です。その中川さんが久々に帰国。「欧州流開発」と題した広島大学との意見交換会に出席された氏にインタビューを行いました。まずはデンソーへの入社動機から。

「機械工学を専攻していて、自動車業界には早くから興味がありました。特にゼミでディーゼルエンジンを学んでいましたから、その思いが強かったですね」

中川さんは海外生活が長いとお聞きしていますが、どのあたりで活動されていましたか。

「アメリカのアイオワに5年、それからロンドンに異動して1年ちょっと、デュッセルドルフに10年いて、アムステルダムに1年4カ月、それからドイツに戻って、今のミュンヘンです」

海外勤務約18年中、ヨーロッパに13年。デンソー・ヨーロッパでは主にどんなことを担当されたのですか。

「ドイツにパワートレイン（エンジンでつくられた回転力を駆動輪へ伝える装置類）開発拠点を設立するために、東奔西走していました。アーヘン・エンジニアリング・センターとミュンヘン・エンジニアリング・センターがそれですが、パワートレイン機器に加えてエンジンECUやアイドル・ストップ用スタータなど電子・電気機器の開発設計などにも取り組んでいます。現在は、『未来創成技術』について思案していて、20〜30年後に必要な技術について仮説を立てていろいろ検証しているところです。世界で16万人近くいるデンソーの未来を考えると、今からタネを蒔いておかないと間に合いませんからね」

ドイツと日本の技術開発の違いを 肌で感じて

理事や教授陣をはじめ行政からの参加者も含めて28人の参加があった9月26日（2016年）の意見交換会。中川さんはどんな話をされたのでしょう。

「一つは、私たちの開発拠点でもあるアーヘンについて、特にドイツにおけるエクセレンス・イニシアティブ11大学の一つに指定されているアーヘン工科大学と自動車業界のつながりについてです。もう一つは、自動車業界における日本の技術開発と欧州流の技術開発の違いについて意見を申し述べました」

どんなところが違うのでしょう?

「ヨーロッパのプレミアムカーの筆頭であるBMWは、地方の小さなエンジン製造工場の一つにすぎませんでした。それが世界をリードする会社になったのは、プレミアムカーをつくるといった“高い志”を持った人たちが、差別化技術でイノベーションを進めたからだと思います。ただ、小さい会社でリソーシスを一から全部投入したらやっていけない。そこで彼らが考えたのが、差別化しないところは『標準化・共通化』を、欧州自動車業界を巻き込んで、徹底して行うことでした。日本のようになんでも自前主義はとりませんでした。そこが一番の違いだと思います」

最後に母校の後輩へのメッセージを伺いました。

「これはアメリカ時代の上司から学んだことですが。『Think Positive』ということですね。できないという理由を10個考えることより、1つでも成功する可能性を考えることに意義・価値があるということです。もう一つ、これは欧州で同僚から学んだことですが、『我以外皆師哉』という言葉です。人は他人の悪いところはよく見えます。その悪口を言っても何も変わりません。人には誰でもいいところがあります。その人のいいところだけを盗むこと。そうしたら、皆さんすごい人になれると思います」

2014年9月にオーストリアで行われたAVL（独立資本で世界最大のパワートレインエンジニアリング会社）主催の内燃機関国際会議（第26回国際AVL会議）で基調講演をする中川さん。

OB・OG インタビュー

現役広大生による
取材・編集記事

●インタビュアー
野田 順平
教育学研究科 博士課程前期2年

企画、取材、撮影から、編集、校正まで広報紙のすべてに奔走する超刺激的な日々の連続。

東広島市役所 政策企画部 市政情報課
山田　早織さん（旧姓：原）
広島大学総合科学部総合科学科 2011年度卒業／愛媛県出身

広報紙まるごと1本

東広島市の“広報「東広島」”は、A4版36ページのけっこうボリュームのある広報紙です。オールカラー、月1回発行。これを山田さんともう1人の担当者と2人が中心になって担当しています。

「毎年、会議によって1年間の特集の方向性が定まるのですが、どこの誰に取材に行き、どんな話を聞くのかという具体化は私の部署がしています。また、特集の他に、東広島市の各部署からの情報を、紙面に収めることも仕事の一つです。この情報を分かりやすく伝えるためにはどういったことを載せる必要があるのかを考え、各部署から届いた原稿を書き直したり、削ったりといった、手直しをしています」

学生時代の専門は生命科学の研究という典型的な理系女子。それが今ではカメラを首から下げ、腕章を巻いて、東広島中を走り回ります。取材も撮影もライティングも全部自分たちで対応します。入稿が近づけば、赤ペン握って毎日遅くまで校正作業。広報紙が納品されれば、市内8万2000世帯と事業所を合わせて約9万部の配布の段取りまで自分たちで。まさに1年中、“広報「東広島」”漬けなのです。「東広島で一番いい時代を過ごさせてもらった。だからこの街に愛着があります。東広島をかけ回っていると、ここが故郷なんだという気もしてきます」

広大で学んだことで役に立っていることは何だろう?

市政情報課に配属されて3年目。昨年まではケーブルテレビの市政情報番組の企画なども担当。どちらにしろ、大学時代の専門とは完全に毛色が異なります。では、大学時代に学んだことや学生生活の経験は今の仕事のなかでどう活かされているのでしょうか。

「私は、総合科学部のなかでも、生化学に関する研究をしている山崎岳先生の研究室に所属し、ヒトの副腎皮質細胞内でのホルモン合成について研究していました。研究する上で重要なのは予備実験と材料。広報の仕事でも実験を通して学んだことを活かして、本番である取材の前に協力してくださる相手方について勉強して、あらかじめおおまかなストーリーやカメラの構図を考えて臨んでいます。また、私は在学時、バレーボールサークル『ALL ROUND』に所属していました。3年のときには、女子キャプテンとして20人ほどのメンバーをまとめていたことを通して、人間関係を円滑にしていく力を身に付けたと思います」

取材時に、『広報東広島の取材です』と言うと、『あの広報紙か!いつも読んでいるよ!』と反応されることがあり、私が作ったものが愛されていると思うととても嬉しく感じます」

もっと英語を使うような環境づくりを

広大から離れて4年半になる山田さん。外から見て、広大はどんな大学に映っているのでしょう。「ここがええね!」と感じるところはどこにあるのでしょう。

「広大生や広大の先生方は活躍している人が多いと思います。広報紙では、各方面で活躍している人をよく取り上げますが、『また広大か』と言う人もいるほど、頻繁に広大にゆかりのある人が登場します。私も取材を通して、広大生から刺激を受けて、モチベーションが上がることもよくあります。そんな、広大の『人』はとてもすばらしい財産だと思います。

しかし、広大生に言いたいことが一つだけあります。それは、英語から逃げないでほしいということです。私が在学中、講義の最中に英語のスライドが出てくるだけでその講義を敬遠する学生もいました。私は、大学院では他の大学へ行ったのですが、そこでは留学生がたくさんいて、研究のディスカッションから雑談まで、いつも英語でコミュニケーションを取っていました。もちろん最初から完璧には英語が話せませんでしたが、少しずつ英語での意思疎通ができるようになりました。世界大学ランキングトップ100入りを目指して、『スーパーグローバル大学創成支援事業』に採択されたのですから、もっと英語でコミュニケーションを取るような環境になれば、さらにグローバルな大学として広島大学が光り輝くのではないでしょうか」

市民からは写真についての感想を聞くことが多い。逆に記事は読まれていないのかと不安になることもあると山田さん。「理想の広報紙は?」の問いに、次のような答えが返ってきた。「いま必要な情報と、いずれ必要になる情報がバランスよく載っていることじゃないでしょうか。ページをめくっていろいろイメージを膨らませてもらえる広報紙、ちゃんと情報の届く広報紙を目指したいですね」

取材される機会はあまりないという山田さん。「学生からの取材は新鮮で、とても刺激になります」

HU TOPICS

BOOK

本学の魅力をギュッと1冊に!
広島大学の新書本が出版されました

「広島大学は世界トップ100に入れるのか」(PHP新書)が発売されました。作家・コラムニストの山下柚実さんが第三者の目で、広島大学の現在と未来を綴ったノンフィクション作品です。

多くの教員への幅広い取材を通して、本学が誇る最先端研究、「世界トップ100入り」を目指す戦略や、大学改革への取り組みなどについて、分かりやすくコンパクトに綴られています。

8月12日に行われた出版発表会では、著者の山下さんは「地方の国立大学の果敢な挑戦がどんなものなのか、外からの視点で取材を進めました」と執筆の動機を語りました。また、越智学長は「新書の出版が卒業生にエールを送るとともに、広島大学を目指す人や保護者の方に広島大学の立ち位置を知ってもらう一助になれば」と期待していました。

ぜひ手に取っていただき、本学の真の魅力に触れてみてください。

お近くの書店で発売中(定価842円)

NEWS

広大病院がサンフレッチェ広島とコラボレーション
てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現を目指します

広島大学病院(てんかんセンター)では、サンフレッチェ広島(以下、サンフレ)とコラボレーションし、てんかん疾患の啓発活動に取り組んでいます。

サンフレのチームカラーは紫。毎年3月26日に行われる世界的なてんかん疾患啓発キャンペーン「パープルデー(Purple Day)」のイメージカラーも紫です。日本のてんかん患者数は、およそ100万人(100人に1人)といわれていますが、社会からの疾患への理解が乏しく未だに偏見が存在するため、てんかんを抱えていることを言い出せない現実もあります。そこで、てんかんをより多くの方に正しく知ってもらうため、病院からサンフレに協力を依頼し、今回のコラボが実現することとなりました。

9月10日にエディオンスタジアム広島で行われたコラボ企画の第1弾では、サンフレと広島大学病院の特製コラボバッジの配布や、サポーターによる寄せ書きの作成を行いました。スタジアムの大型ビジョンでは佐藤寿人、青山敏弘、千葉和彦の3選手がビデオメッセージで出演しました。3選手からのメッセージは、本学ホームページ(YouTube)からも視聴できます。

サンフレと広大病院の特製コラボバッジ

佐藤寿人選手による啓発メッセージ

NEWS

広島東洋カープ 祝・リーグ優勝!!
関東の本学関係者も優勝の喜びを分かち合いました

プロ野球のセ・リーグで広島東洋カープ(以下、カープ)が25年ぶりに優勝しました!カープの優勝を祝して、9月17日には、卒業生有志による祝賀会を東京銀座で開催。多くのカープファンが駆け付け、美味しいお酒とともに、カープ談義に花を咲かせました。

本学も実はカープと深いつながりがあり、近年では、毎年カープの新入団選手が広島大学病院を訪れ、心肺機能や筋力、瞬発力などの本格的な体力測定を行っています。

優勝祝賀会の様子

EVENT

オープンキャンパス2016
ご来場ありがとうございました

オープンキャンパスを8月18日、19日に開催しました。今年も、各学部がさまざまなプログラムを用意し、教員と在学生が広島大学の魅力を伝えました。

今年の参加者数は延べ35,292人。両日ともに猛暑となりましたが、どのプログラムにも、たくさんの来場者にご参加いただきました。

県内外から多くの高校生、保護者の皆さまに足を運んでいただきました。

青空のキャンパスを歩く参加者

NEWS

アンガールズの田中卓志さんに
「広島大学アンバサダー」を委嘱しました

タレントのアンガールズ田中卓志(たなか・たくし)さんに、「広島大学アンバサダー」を委嘱しました。本学のアンバサダー就任は田中さんが初めてです。

広島大学アンバサダーは、各界で活躍されている広島大学を卒業された方やゆかりのある方に学長が委嘱し、広島大学の良さやブランドを広く社会に発信していただく役割を担っていただきます。

田中卓志さんは1976年広島県府中市生まれ。1999年に広島大学工学部第四類(建設系)建築学課程を卒業されました。2002年にアンガールズとしてデビューし、RCCの「元就。」をはじめテレビや各種メディアで活躍中です。

本学OBであるとともに、親しみやすく飾り気のないキャラクターで好感度が高いことから、田中さんにアンバサダー就任をお願いしたところ、ご快諾してくださいました。今後、広島大学が作製するアンバサダーの名刺を広く配っていただき、「ええね広大!」のPRに一役買っていただきます。

学長から委嘱状を手渡され笑顔の田中さん

RESEARCH

JST支援　他大学や産業界との「本格的な産学共同研究」が始動
広島大学が中心となり、ゲノム編集技術の社会実装に向けた研究開発に取り組みます

科学技術振興機構（JST）の「研究成果展開事業 産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）」の2016年度新規研究領域に、本学の取り組みが採択されました。

これは、産業界との協力のもと、大学などが知的資産を総動員して、「組織」対「組織」による「本格的な産学共同研究」を行うもので、2016年度に開始されたプログラムです。

本学の4研究科を中心に、15機関（他大学など6＋企業9）が参画しゲノム編集技術により、油脂素材化合物、エネルギー、畜産、実験動物など、多様な産業分野のニーズに沿った有用細胞・生物を作成するために必要な基盤技術の開発に取り組みます。広島大学の「ゲノム編集研究拠点」は、その中核を担います。

「ゲノム編集」とは…？

生き物の設計図である遺伝子情報を自由自在に書き換えることができる技術。特定の遺伝子の機能を「狙い撃ち」で改変することにより、人の手で実験的に生物を進化させることができる唯一の方法といわれています。

広島大学ゲノム編集研究拠点のリーダーでもある、理学研究科の山本卓教授はゲノム編集技術に日本でいちはやく取り組みました。ゲノム編集は再生医療分野でも注目されており、ノーベル賞を受賞した山中伸弥教授が所長を務める、「京都大学iPS細胞研究所」とも共同で研究を進めています。

EDUCATION

新しい留学生受け入れプログラム「森戸高等教育学院3＋1プログラム」が10月からスタート

本プログラムでは、中国などの大学で学部3年次または2年次までの課程を修了した学生を本学の特別聴講学生として受け入れ、専門教育や卒業論文指導などを行います。本学で修得した単位は母国の大学の単位に換算し、組み入れ可能。また、留学生は、語学や平和に関する科目も履修します。

開講式に出席した第1期生（26人）ら

NEWS

広島大学同窓生交流組織「千田塾」presents異業種交流会が開催されました

同窓生有志による組織「千田塾」は、同窓生間のビジネス交流、在学生・同窓生の就職支援などを目的に活動しています。

8月30日には、中国地域ニュービジネス協議会による異業種交流会「第102回広島5:01クラブ」が開催されました。これは、地元の有力企業・団体に続いて、千田塾が今回初めて幹事役を務めたものです。

当日は、越智学長や社会産学連携担当の高田理事・副学長も参加。参加者の皆さんは大いに語り合い、親睦を深めました。

千田塾会員は「ええね広大!」のキャッチコピーをあしらったジャンパーを着用

EVENT

東広島キャンパスで大学祭、ホームカミングデーなどを開催します

◆第65回広島大学大学祭 11/5･6
今年のテーマは「思い出列車、祭秋便。」

大学祭は、総合科学部周辺で開催され、学生による模擬店の出店や学生サークルによる展示・活動紹介、屋内外企画など、多彩なイベントで皆さんをお迎えします。スペイン広場特設ステージでは、今年も人気企画「Mr.&Ms.広大コンテスト」を行います。ぜひキャンパスに遊びに来ていただき、広島大学を満喫してください!

昨年の模擬店の様子

オペラ歌手の中丸三千繪さん

◆第10回ホームカミングデー 11/5

ホームカミングデー（HCD）は、年に1度、卒業生の皆さんに大学に帰ってきてもらい、恩師や同窓生と旧交を温めていただくイベントです。10回目となる今年も「サタケメモリアルホール」をメイン会場として開催します。

午前中はカープの優勝パレードのパブリックビューイングを行います。午後は、HCDスペシャル企画として、世界のプリマドンナ・オペラ歌手の中丸三千繪さんによるコンサートを行います。連携市町の物産展や学生チームによるおもてなし企画など、工夫を凝らした催し物も多数用意します。

EVENT

戦争を体験していない世代（第三世代）がヒロシマを“継いでいく”方法を考える企画展

「第三世代が考えるヒロシマ『　　』継ぐ展2016」が、横浜市西区のみなとみらいギャラリー（8月3～8日）と広島平和記念公園（8月6日）で開かれました。

これは、東京在住の若手クリエーターたちが、若い世代や親子連れに向けた平和学習の場所を提供し、戦争体験者と非体験者をつなげることを目的に開いたイベントです。本学や首都圏の大学の学生たちも企画・制作に参加しました。

本学は文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC）」に採択された「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」の一環として協力。「継ぐ展」メイン会場では、本学の原爆瓦発送之会が収集した瓦や石を展示しました。

被爆石材を集め研究している、本学の嘉陽礼文研究員による建物のがれきや石材の展示

EVENT

未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分に凝縮!

3分以内に自身の研究の魅力をわかりやすく伝える力を競う「未来博士3分間コンペティション2016」が9月24日に開催されました。広島大学・山口大学・徳島大学（本学が代表機関）が共同で推進する事業「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の一環により実施。今年は英語部門も新設され、10大学38人の大学院生が発表しました。

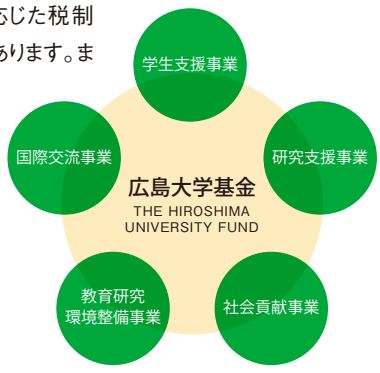
本学の笘野哲史さん（生物圏科学研究科博士課程後期3年）が「オーディエンス賞」と「優秀賞」を受賞しました。

広島大学への寄附にご協力いただきありがとうございます。

「広島大学基金」は、2007年度に創設された寄附金制度です。皆様からいただきました貴重な寄附金は、グローバルに活躍できる「平和を希求する国際的教養人」を育成する学生支援事業などに活用しています。

運営費交付金の削減や資金獲得競争の激化など、国立大学を取り巻く環境が年々厳しくなっているなか、大学経営の安定化を図る上でも基金の強化が求められています。

多くの優秀な人材を本学から社会に送り出すために、皆様からの寄附をお願いいたします。寄附金の管理・運営につきましては本学が責任をもって行います。なお、法人・個人とも寄附金額に応じた税制上の優遇措置があります。また、一定額以上の寄附をいただいた方のご厚意に対して顕彰をご用意しています。



広島大学基金の使い道

●フェニックス奨学事業

学力が優秀でありながら、経済的理由により大学進学が困難な学生を対象とした広島大学独自の給付型奨学金「フェニックス奨学制度」を実施しています。

入学から卒業まで、月額10万円を支給しています。

広島大学の大学院または専攻科に進学した場合は、奨学生として継続支援します。

●海外研修支援事業（STARTプログラム）

海外経験の少ない学部1年生を対象に、2週間程度、海外の大学やその周辺都市を訪問し、日本と異なる文化や環境を体験する「STARTプログラム」に参加する学生の費用を一部支援する事業です。国際交流や留学への関心を高めるとともに、近い将来中長期的な留学へと誘うことを目的としています。

参加費用の一部を広島大学基金から補助することで、学生の経済的負担を減らし、より多くの学生が留学に挑戦することを期待しており、当面は入学者の10%（約240人）の派遣を目指しています。

●大学院学生のための国際学会発表支援事業

大学院生が海外で行われる国際学会で発表する際に支援をする事業です。学生による研究活動の活性化を促進し、国際的に通用する人材を育成することを目的としています。なお、この事業は各研究科が独自に実施している支援事業を補完する取り組みとなっています。

広島大学冠事業基金を創設しました。

2015年度から新たに、寄附をいただいた方のご芳名などを冠して、寄附者様のご厚意が見える形にした「広島大学冠事業基金」を創設しました。寄附方法は、一口5万円の毎月の継続寄附で、当面は外国人留学生への奨学金と日本人学生への海外留学資金に活用します。

2015年9月～2016年8月までに寄附をいただいた方は以下の通りです。※金額は、広島大学基金にいただいた金額の累計。

広島大学基金

100万円以上

医療法人社団
浜中皮ふ科クリニック 院長
浜中 和子 様
「名誉校友」の称号授与

医療法人多布施クリニック 理事長
諸隈 啓子 様
「名誉校友」の称号授与

三嶋 弘 様

医療法人社団仁慈会 理事長
安田 克樹 様

医療法人恒和会松石病院 理事長
松石 頼明 様

The Micron Technology Foundation, Inc.
「特別校友」の称号授与

株式会社シンコー 代表取締役社長
筒井 幹治 様
「特別校友」の称号授与

山本 佳史 様
「特別校友」の称号授与

石原 舜三 様

医療法人社団長寿会 理事長
畑野 栄治 様

石﨑 信三 様
「特別校友」の称号授与

医療法人あすか 理事長
高橋 勲 様
「特別校友」の称号授与

医療法人社団中川会
呉中通病院 副院長
中川 豪 様
「特別校友」の称号授与

医療法人社団もみの木会
大朝ふるさと病院 理事長
坂 信一 様
「特別校友」の称号授与

梶山 泰正 様
「特別校友」の称号授与

株式会社内藤建築事務所
代表取締役
川本 雄三 様
「特別校友」の称号授与

株式会社紀陽 代表取締役社長
寒川 起佳 様
「特別校友」の称号授与

佐藤 裕子 様
「特別校友」の称号授与

住田 忠幸 様
「特別校友」の称号授与

八幡浜市 様
「特別校友」の称号授与

10万円以上100万円未満

佐藤 利行 様

株式会社もみじ銀行
代表取締役頭取
野坂 文雄 様

広島大学消費生活協同組合
理事長
細野 賢治 様

力田 忠義 様
「特別校友」の称号授与

鮎川 節子 様
「特別校友」の称号授与

医療法人至誠会 石井整形外科
リハビリクリニック 理事長
石井 謙一郎 様

医療法人社団
上田整形外科 理事長
上田 久司 様

梶原 大輔 様
「特別校友」の称号授与

田村 咲江 様
「特別校友」の称号授与

ティーエスアルフレッサ株式会社
代表取締役会長
髙橋 英富 様

湯浅 里司 様
「特別校友」の称号授与

造賀 芳文 様
住田 佳樹 様
西本 和子 様
東儀 宣哲 様
小林 節郎 様
宮脇 克也 様
前原 進 様
安永 裕司 様
山田 久仁夫 様
木船 直人 様
水口 英樹 様
杉村 功 様
山坂 哲郎 様
町田 睦子 様
魚住 徹 様

岡 晃 様
小田 健司 様
北澤 利明 様
熊井 英水 様
神野 順子 様
大作 浩一 様

中国電設工業株式会社
代表取締役
川本 冨士夫 様

徳永 彰 様
戸田 正弘 様
中西 一義 様
中光 清志 様

中村角株式会社
代表取締役
中村 一朗 様

原田 薫雄 様
部谷 正人 様
宮本 博子 様
宮本 義洋 様

ミリアグループ株式会社
代表取締役
沼田 和宏 様

医療法人社団マッキー
理事長
松木 啓 様

村尾 保 様
村尾 靖子 様
渡邉 篤 様

10万円未満

井原 俊彦 様
木村 榮一 様
山崎 護 様
佐藤 崇文 様
大槻 俊輔 様

医療法人社団仁鷹会 理事長
林 鷹治 様

小泉 尚人 様

(一社)広島大学工学同窓会 会長
羽山信宏 様

今城 雅彦 様
碓井 亜 様
大岡 英太郎 様
大杉 健 様

株式会社立芝 代表取締役会長
向井 恒雄 様

迫 和弘 様
佐々木 正修 様
武田 宏之 様
畠山 信重 様
花岡 俊輔 様
松野 尚弘 様
椋田 昌夫 様
吉田 哲也 様
ウイリアムス 浩子 様
関 幾夫 様
西田 修実 様
正木 久義 様
山崎 正数 様
宮内 晃 様
青木 暢之 様
池田 晴久 様

キリトリ線

料金受取人払郵便

安芸西条局
承　認
8311

差出有効期間
平成30年
10月31日まで

切手不要

739-8511

東広島市鏡山1-3-2

広島大学
社会産学連携室 広報部
広報グループ 行

キリトリ線

伊藤 敦志 様
栗尾 重徳 様
新谷 真弓 様
杉田 清治 様
角田 幸信 様
田村 英己 様
寺面 和史 様
田 捷 様
原田 久 様
福島 律子 様
松岡 重信 様
光波 康壮 様
八木 誠一郎 様
山尾 浩行 様
安東 善博 様
石川 学 様
大野 隆行 様
野田 幸雄 様
藤田 正幸 様
石井 康隆 様
糸藤 夏樹 様
植田 淳 様
榎本 暢之 様
大賀 裕見子 様
梶田 省三 様
川田 和徳 様
小堀 正 様
谷本 一幸 様
中川 徹 様
野田 肇 様
浜野 公一 様
原田 宏司 様
平田 悦江 様

古橋 道子 様
堀江 加代美 様
見前 隆洋 様
森重 達夫 様
八島 正明 様
山手 万知子 様
山本 拓志 様
入江 啓太郎 様
井上 義一 様
魚森 謙也 様
川口 美紀 様
小泉 誠一 様
小塚 雅俊 様
塩川 和晴 様
清水 明彦 様
西原 久雄 様
延永 計介 様
屋敷 太郎 様
吾郷 誠二 様
飯島 俊荘 様
市来 武規 様
伊藤 敏裕 様
(医社)坂上整形外科クリニック
院長 坂上 正樹 様
(医社)聖敬会 田中医院
田中 孝 様
岩下 未咲 様
上田 良夫 様
大野 能敬 様
大矢知 真希 様
岡田 茂 様
小谷 泰三 様
小田 秀樹 様
川口 英雄 様

川崎 いずみ 様
黒瀬 靖郎 様
河野 政樹 様
小島 亮二 様
児玉 照三 様
小林 昇 様
阪口 祐彦 様
佐々木 伸矢 様
篠原 基成 様
白浜 博幸 様
芹生 公男 様
髙田 國行 様
髙田 坦 様
高橋 勇 様
太刀掛 初栄 様
谷口 芳夫 様
次田 佳子 様
寺迫 環 様
長尾 浩樹 様
中野 絵理 様
中村 文三 様
難波 康俊 様
仁田 茂 様
畑尾 武海 様
畠中 邦夫 様
原田 和男 様
原田 寿子 様
平岡 英雄 様
藤田 睦 様
船山 明子 様
政川 俊史 様
水谷 章子 様
水馬 和子 様

宮崎 桂子 様
村山 千恵 様
望月 久美子 様
百々 隆雄 様
山根 辰夫 様
山元 勇治 様
脇本 和男 様
和田 章 様
新宅 隆 様
池田 時雄 様
池田 隼人 様
一丸 八郎 様
今井 絵美 様
内木 恵子 様
小笠原 公子 様
岡野内 悟 様
資逸 理裕 様
曽根 哲弥 様
竹内 昌成 様
為汲 一彦 様
土谷 真三 様
中谷 博子 様
中田 博之 様
中村 真司 様
中本 達哉 様
原野 弘之 様
平川 裕 様
平田 悦造 様
桝井 佩瑳子 様
山住 誠 様
麻尾 安英 様
飯塚 保久 様

冠事業基金

医療法人S.R.C.
中光整形外科リハビリクリニック 院長
中光 清志 様

医療法人エム・エム会 理事長
白川 泰山 様

医療法人おち眼科医院 理事長
越智 温子 様
「特別校友」の称号授与

医療法人社団楓会 林病院 理事長
林 淳二 様

医療法人社団慈恵会
いまだ病院 院長
大杉 健 様

医療法人社団仁慈会 理事長
安田 克樹 様

医療法人社団スマイル
博愛クリニック 理事長
高杉 敬久 様

医療法人社団清流会 理事長
永井 賢一 様

医療法人社団マッキー 理事長
松木 啓 様

医療法人社団まりも会 理事長
平松 廣夫 様

医療法人昭和
原田整形外科病院 理事長
原田 昭 様

医療法人せいざん青山病院 院長
大村 泰 様

医療法人明笑会 理事長
安本 正徳 様

オタフクソース株式会社
代表取締役社長
佐々木 直義 様
「特別校友」の称号授与

株式会社紀陽 代表取締役社長
寒川 起佳 様
「特別校友」の称号授与

株式会社総合広告社
代表取締役副会長
坪井 高義 様

株式会社ダイクレ 代表取締役社長
山本 浩 様
「特別校友」の称号授与

株式会社南江堂 代表取締役社長
小立 鉦彦 様

株式会社にしき堂 代表取締役
大谷 博国 様

株式会社バルコム 代表取締役
山坂 哲郎 様

大正富山医薬品株式会社
代表取締役社長
藤田 憲一 様
「特別校友」の称号授与

大谷 美奈子 様

越智 光夫 様

金谷 篤 様

佐藤 利行 様

中村 英雄 様

A

広島大学広報誌『HU-plus』アンケート

今後の誌面づくりに活用させていただきます。ぜひご回答くださいませ。

1. 今号の内容について評価をお聞かせください。※該当の数字に○

	悪い	やや悪い	ふつう	まあまあ良い	良い
散詩語録 学長からのメッセージ	1	2	3	4	5
[特集]広大ここがええね!	1	2	3	4	5
日経サイエンスが見た広島大学	1	2	3	4	5
研究者魂	1	2	3	4	5
広大教育考	1	2	3	4	5
キャンパス散歩	1	2	3	4	5
HU-style	1	2	3	4	5
OB・OGインタビュー	1	2	3	4	5
HU TOPICS	1	2	3	4	5
広島大学への寄附・基金について	1	2	3	4	5
産学官連携商品 開発モノがたり	1	2	3	4	5
留学紀行	1	2	3	4	5

2. 今号の誌面構成について ※該当項目に☑

ページ数	□ 少ない	□ ちょうど良い	□ 多い
文字の大きさ	□ 小さい	□ ちょうど良い	□ 大きい
文章量	□ 少ない	□ ちょうど良い	□ 多い
写真の点数	□ 少ない	□ ちょうど良い	□ 多い
デザイン	□ 悪い	□ ふつう	□ 良い

3. 今号の本誌の中で、もっともご関心をいただいた記事は何ですか?

4. 今後、取り上げてほしいテーマがございましたらお書きください。

A

のり

5. その他、ご意見、ご感想、広大へのメッセージなどありましたらお書きください。

※お寄せいただいたメッセージは、次号以降の本誌の中でご紹介させていただく場合がございます。ご了承ください。なお、掲載時にペンネームをご希望の方は右枠にお書きください。

ペンネーム

折り線

プレゼントご希望の方は必須

ご住所 〒 -

お名前 ふりがな

ご職業

電話

年齢 歳

ご希望のプレゼント ※希望商品に☑

□ にしき堂 広島銘菓 せとこまち

□ PHP新書 広島大学は世界トップ100に入れるのか

本アンケートでご記入いただいた個人情報は、アンケートに関わる目的のみに使用し、他の目的には使用いたしません。

のり

ご協力ありがとうございました。

のり

この部分にのりを付け、Aと貼り合わせてください。

キリトリ線

A

A

キリトリ線

FAXでもご回答いただけます。

アンケートにご記入の上、キリトリ線で切り取り、
そのまま右記までお送りください。

Fax.082-424-6040

アンケートにご協力ください

読者のみなさまからのご意見、ご要望、
掲載につながる情報提供をお待ちしています。

応募要項

上記アンケートにお答えいただき、必要事項をご記入の上、切り取って、斜線部分にのりを付け、二つ折りにして貼り合わせ、郵便ポストに投函してください(切手不要)。プレゼントの応募者多数の場合は、厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表とさせていただきます。なお、アンケートはプレゼントの応募締切以降も随時受け付けております。

PRESENT

応募締切:2016年12月31日必着
※アンケートは随時受け付けています。

アンケートにお答えいただいた方の中から
抽選で合計10名様にプレゼント!!

5名様

にしき堂
広島銘菓 せとこまち
八朔・れもん各5個入
広大と共同開発商品。
柑橘の香りも爽やかな
新食感の和菓子です。

5名様

PHP新書
広島大学は世界トップ100に入れるのか
山下柚実著
「100年後も光り輝く大学」になるために
必要なことは何か。
ローカル国立大学の挑戦を綴る。

産学官連携商品

開発モノがたり

広島大学と地域の企業との共同開発で生まれた
地域連携商品をご紹介します。

瀬戸のカンキツの甘酸っぱさとほのかな苦味が、美味しいとヘルシーを刺激する。

八朔銘菓「せとこまち」●株式会社にしき堂

新しい広島土産の誕生に広大の技術が

「今や、もみじまんじゅうに次ぐ人気商品です」。にしき堂（本社・広島市東区）の大谷博国社長に「せとこまち」の売れ行きをお尋ねしたところ、こんな言葉が返ってきました。

尾道市因島が発祥のハッサクを丸ごと使ってジャムに仕立て、これを求肥（ぎゅうひ）に包み、しっとりしたせんべいではさんだ和菓子。上品な甘さとほのかな苦みがマッチして、女性を中心にファンを広げているそうです。

株式会社にしき堂 大谷博国社長

産学官連携の真骨頂

広島大学は2004年、尾道市の提案を受けてあるカンキツ類の機能性成分の研究に取り組みました。その結果、ハッサクにビタミンCや食物繊維が多く含まれることを発見。にしき堂をはじめ地元食品メーカーが、ハッサクを使った新商品開発に取り組みました。

「せとこまち」は2010年3月に販売開始。「開発を始めて5年目にやっと商品化にこぎつけました。成熟したハッサクの果実を丸ごと使うので、そのままではものすごく苦い。その落としどころに一番苦労しました」

ネーミングや包装デザインも広島大学が協力しています。全国一の生産量を誇る県内産レモンを使った第二弾も好評。「地元のかんきつ農家の皆さんにも喜んでいただけるのがうれしいですね」と大谷社長は話しています。

広島銘菓「せとこまち」
ハッサクの皮の機能性成分に着目した広島大学の研究を基に、皮も原料にして求肥に包んだ和菓子。健康に敏感な女性を中心に人気を集める。県内産のレモンを使った第二弾も好評だ。

広島大学公式SNS

新着ニュースやイベント案内などを発信しています。

facebook
日本語版 https://www.facebook.com/HiroshimaUniv
英語版 https://www.facebook.com/HiroshimaUniv.en

twitter
https://twitter.com/Hiroshima_Univ

YouTube
https://www.youtube.com/user/HiroshimaUniv

LINE@で
広大の入試情報を配信中

LINEの
「友だち追加」から
右記のQRコードを
読み取って登録!

次号（Vol.2）は、2017年1月発行予定です。

留学紀行

気温が0℃を超えることはない厳冬のフィンランド。昼といえども太陽は低く、窓霜の向こうのユヴァスキュラの街も薄暮に包まれる。

厳冬のフィンランドの憂鬱を溶かしたのはサウナのぬくもり。

教育学部 第五類教育学系コース 4年
倉増 和真 Kazuma Kuramasu

“Aurinko paistaa.”（太陽が輝いているね。）分厚い雲の間から太陽が顔をのぞかせたその日、街行く人々はそんな言葉を交わしていた。厳しい冬の日の貴重な太陽を皆でよろこぶ挨拶だ。その冬、3カ月の間で太陽を見ることができたのはたった18時間。私たちの国に、温かい冬の日をたくみに言い表した「小春日和」という言葉があるように、北欧にもその土地の自然と人々の暮らしが結びついた言葉があるのだと知った。文化とは何か、言葉とは何かと考えさせられた瞬間だった。

気が塞ぎそうな憂鬱な冬に味方してくれたのはサウナだった。サウナにはいつでも人がいて、体を温めながら談話をしている。私の暮らしていた学生寮にも、棟ごとにサウナが設置されていた。サウナは息抜きの場のみならず、コミュニケーションの空間でもあり、入れかわり立ちかわり利用する人々に会話の場を提供していた。私もサウナに通うことで、大学の授業では学べないようなことを、現地の人や留学生とのコミュニケーションを通して知ることができた。留学生の中にはサウナに抵抗を感じる人もいたが、温泉や風呂好きの日本人として、フィンランドのサウナ文化に親近感を覚えた。

異なる自然・言語・文化に身を置いた1年の経験は、多種多様な人やものを理解し、受容する姿勢の基礎を作ってくれた。

（写真は本人提供）

●留学先：フィンランド・ユヴァスキュラ大学●留学期間：2012年8月～2013年7月●HUSAプログラム※を利用

※広島大学短期交換留学プログラム（Hiroshima University Study Abroad Program）は、学部生・大学院生が大学間学生交流協定などに基づいて母国の大学に在籍しつつ、留学先大学で現地の学生と同じ授業を受講し、単位修得を目指す制度。

100年後にも世界で光り輝く大学へ
広島大学
TOP Type
編集・発行：広島大学 社会産学連携室 広報部 広報グループ
〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL：082-424-6762 FAX：082-424-6040
E-mail：koho@office.hiroshima-u.ac.jp
http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html